

北アルプス 上の廊下～赤木沢  
日程 2011年8月13日～16日  
メンバー CL 平本、SL 早川、木下、  
熊崎、柳下(記録)

沢をやるからには、一度は行きたいと考えていた上の廊下。過去にも計画したが実現しなかった山行が、入会初年度に実現することになった。自分なりにトレーニングを積み、体調を整え、当日を迎えた。

8月12日(金)

21時30分 海老名駅西口集合  
途中若干の渋滞があり、扇沢駐車場に2時前に到着する。扇沢駅のすぐ下にある車両回送サービス受付の駐車場に車を止め、近くにテントを張り仮眠。

8月13日

早朝から扇沢は賑わい出す。始発のトローリーバスに乗るため、5時過ぎに起きる。車両回送サービスの職員が「バスの受付は30～40分前にならないと開かない」と言っていたので、のんびり朝食など済ませていると、どんどん人が並び出し、長蛇の列が出来る。急いで並んで切符を手に入れ、重い荷物を背負って早足で歩き、始発のバスにぎりぎり間に合い、ドア付近に強引に乗り込む。バスは満員電車並だ。

15分で黒部ダムに到着、トンネルを歩いて外へ出る。風は涼しく、すがすがしい。



10時の渡し舟に乗りたいので、早足で黒部湖岸の道を歩くが、荷物が重く、すぐに普通のペースに戻った。ロッジくろよんを過ぎると舗装された道が登山道になり、黒部湖に注ぐ支沢に沿って回り込みながら、小さなアップダウンを繰り返して進む。20センチはあろうかという巨大な山ナメクジに熊崎さんがちよっかいを出す。さすが黒部。こんな大きいのがいるのか。湖を遊覧船が通っている。あれに乗って平の渡しで下りられれば楽なのに。登山道は御山谷で下まで降りる。7時45分到着で5分間休憩。平本さん、熊崎さんはGWにスキーで滑ったそうだ。機会があれば、私も来てみたいところだ。また木の階段を登り、平の小屋まで歩く。みんな重荷でペースがはかどらない。中の谷到着が9時30分。残り30分。10時の船に間に合わないと計画した口元のタル沢まで進めない。平本さんが先行、残りメンバーも休まず歩く。平の小屋が見えてくると、湖岸に船が浮かぶのが見え、9時50分に船着場に到着した。



船は時間通り出航、10 数人の登山客を乗せて、湖をゆるゆると進む。15 分ほどで対岸の船着場に到着、早川さんの腰が痛むようで、共同装備などを再分担する。10 時 45 分出発。船に間に合ったので、余裕ができた。少しペースを落として進む。最初はなだらかな湖岸道は、次第に階段が増え、アップダウンを繰り返す。

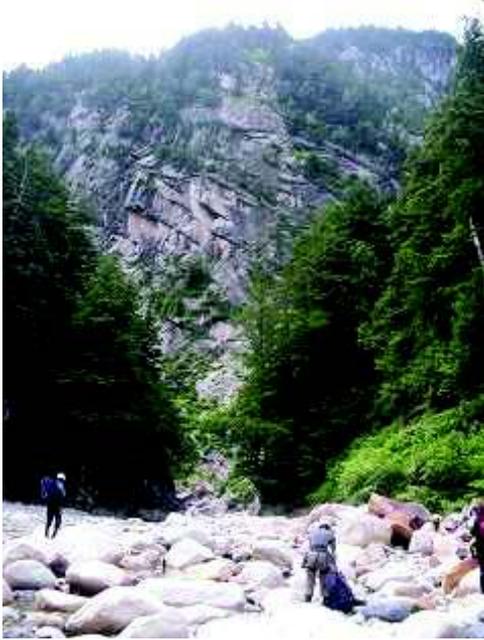


眼下に見える黒部ダムはどんどん幅が狭くなり、目指す黒部川本流の流れになってくる。水は少ないように見えるが、実際はどうか？1 時間半ほどの歩くと、道が

左にまがり開けた場所に出る、しばし歩き、東沢を渡り、キャンプ指定地を過ぎて、12 時 35 分に奥黒部ヒュッテ到着。平本さんがヒュッテに計画書を出し、上の廊下の様子を聞いてくると、ここ数日は毎日 1 パーティーで、戻ってきた人はいないとのこと。遡行のチャンスだ。身支度し、昼食をとり、東沢まで戻り 13 時 20 分に入渓する。

東沢出合から、目指す上の廊下が見える。広い河原に透明な水が流れ、河原に枯れた立ち木が一本ある。河原が広いので威圧感はないが、大きな川の本流に来たのだと感じる。早速右岸から左岸に渡渉だ。水は冷たく、深さの割に、意外に流れが強い。これが上の廊下の水流か。右岸の河原を歩くと、砂がついた靴底で岩に乗ると滑りやすい。

ちょっとした岩の乗越して、右足がつり、熊の沢出合で休憩。いよいよ本格的な渡渉の繰り返しとなる。スクラム徒渉を繰り返す。2 人と 3 人に分かれ、あるいは強い流れのときは 5 人で徒渉を繰り返す。徒渉トレーニングで練習したように、パートナーに思い切り体重をかける。一人では越えられないところでも、仲間がいると安全に通過できる。スクラム徒渉の強力さを実感する。河原は狭くなり、両岸が立ってくる。右岸からは滝が入り込んできて、1 時間も歩き、徒渉を繰り返すと、目の前に黒い岸壁、下の黒ビンガが姿を現す。迫力がある。写真をとり休憩する。



左岸からの雪溪の詰まった沢を過ぎると、本日の核心部、口元のタル沢のゴルジュに到着。徒渉トレの時に聞いていた話では、15mほど泳げれば大丈夫ということだったが、実際の流れを見てみると、こんな強い流れを越える自信がない。平本さんが泳ぎたい人を募ると、早川さんが立候補。空身になり、ロープを引く。へつりでゴルジュの奥まで行き、左岸に向けて下流に流されながら泳ぐ。対岸までたどり着くが、目標よりやや下流になってしまい、流れが強く壁から引き離されてしまう。あと1m上流の、凹角で流れが巻き込みになっているところまで行ければ大丈夫なのだろうが、3回チャレンジするも無理。次いで柳下がチャレンジ、早川さん同様に対岸まで行ったが、結局流されてしまう。ここまでは腰上の徒渉で済んだが、全身ずぶぬれになると、一気に寒くなる。日もあたらず、震えが出て止まらない。さらに平本さんもチャレンジするが流される。

方針変更し、木下さんが左岸から巻く。ロープを出して5mほど上がり、ハーケンを打ち、ゴルジュを越えて下った。私は上りは良かったが、クライムダウンができず、笛を吹いて助けを呼んで、下り方を教えてもらう。その先は左岸の踏み跡を辿りゴルジュを越える。

通過にはトータルで1時間近くかかっただろうか。冷えた体は辛く、早く焚き火にあたりたい。最後は右岸にスクラム徒渉し、一段あがったところを幕場とする。1705に終了。焚き木が良く乾いていてあっという間に火がつき、火にあたるとほっとする。本日の食当は早川さん。ナスの炒め物2種、焼き豚の豪華な食事だった。熊崎さんが大きな岩魚を釣り上げたが、写真だけとってリリースする。持ち上げた食事がたくさんあるのだから、敢えて食べる必要もないだろう。

翌日は上の廊下の核心部を通過する日になる。泳ぎがあるので日が当たらないと寒いという木下さんの意見が採用され、朝はゆっくりすることにする。

今日一日頑張ってくれたリーダーとサブリーダーは食後間もなくテントにもぐりこむ。残り3人は、月が稜線から顔を出すのを待ちながら、酒を飲む。

木下さん、熊崎さんは外でゴロ寝。

8月14日

良く晴れている。朝食は簡単にスパゲティで済ます。遡行準備をすると、7時過ぎには

谷に日が差し始める。7時30分出発。右岸から滝が落ちてくるところで、朝一番の徒渉。平本さん先頭で左岸に渡り、後続はザックピストンで通過。



廊下沢を過ぎると遠く薬師岳からの主稜線が見えてきて、北アルプスの真ん中を歩いていることを感じる。旧黒五の広い河原に1時間ほどで到着、休憩する。真っ青な空の下、のびやかな河原歩きは、日本の沢を歩いているとは思えないような雄大さだ。歩いても歩いても河原が続くのは、人によっては冗長に感じるかもしれないが、どこまでも続くこの開放感は素晴らしい。



途中で平本さんと、木下さんが足を痛め、平本さんは念のためテーピングをする。次第に両岸が立ってきて、1時間ほどの歩きで上の黒ビンガとなる。大岸壁と木々の

緑、側壁から流れ落ちる美しい滝、青い空に酔いしれる。皆、写真撮影に余念が無い。



登山者というより、外国旅行に行った観光客のようだ。上の廊下で、どこが一番美しかったかと言えば、間違いなく上の黒ビンガだろう。



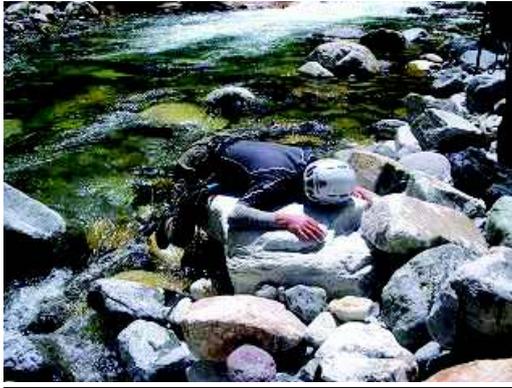
下降してくる3人パーティーに上流の様子を聞く。心配していた雪渓も大したことないようで、安心する。10時45分金作谷に到着して休憩。薬師岳に突き上げる金作谷には雪渓が詰まっていて、雪渓の白と青空が、いかにも夏の北アルプスという風景で、これも美しい。



しばし見とれて、11時10分に二つ目の核心部である金作谷上流のゴルジュに突入する。

体が冷えるし、色々あったので、二日目のこの先(特に下線部)の記憶は断片的で曖昧なので、記録としての価値は無い。当日のメモから再現すると

平本さんがロープを引き、右岸をへつって淵を越える。左岸にうつり、早川さん泳ぎで右岸へ渡りテラスへ上がる(11:30)。さらにザイル徒渉で左岸へ渡り、11:50に休憩とする。40分間のゴルジュ通過で体が冷え切ってしまった。太陽の熱で温まった岩に抱きつき、日向ぼっこして体を暖める。12:10 出発。



立石奇岩を過ぎ、広河原になる。

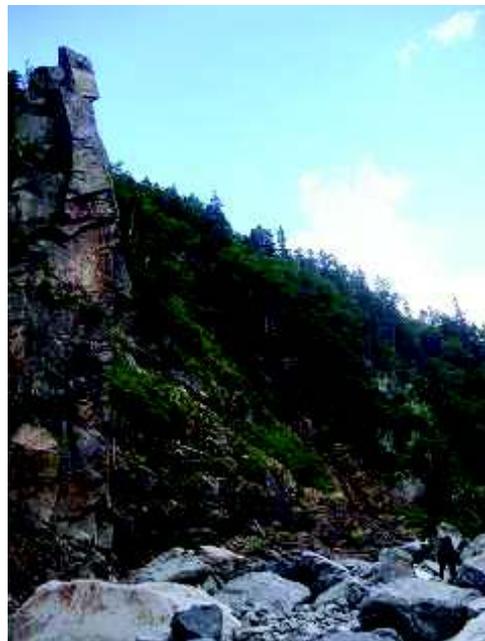
次の淵は熊崎さん先頭で右岸からへつりと泳ぎ、後続はロープ伝いに泳ぐ。その後もザイル徒渉、へつりなどあり、ゴルジュを12.40に終了。

しばらく平凡な流れで、13.30に赤牛沢手前のゴルジュに入る。早川さんが右岸を空身で泳ぎ、バンドに上がって、全員のザックを荷揚げする。後続はロープを使ってへつりと泳ぎで通過する。



次の淵は平本さんが右岸から左岸へ泳ぎ、後続はロープで超える。15.20赤牛沢に到着。

岩苔小谷を過ぎ、2mの滝のところは、平本さんが左から右へジャンプ。まるで白熊のような迫力のあるジャンプだ。次の淵は右から高巻き、さらに左から右へジャンプする。



17.05上の廊下核心部をクリアし、本日の行程を終了した。

焚き火をおこし、今日は早速飲み始める。夕食は熊崎さんの炊き込みご飯と味噌汁、うずらの卵とカニ缶付きで満腹になる。月が出るのを待ちながら飲み続ける。雲がなく、昨日以上に明るい月で、こんなに明るければ夜間行動も困らないねと話す。



リーダーが「今日は外で寝る」と宣言したが、2名は指示に従わず、テントを張って寝る。夜はかなり冷え込んだ。やはり外で寝た木下さんによると、寒さで平本さんがすぐ焚き火の脇に移動してきたので、薪が足せなかったということだ。

8月15日

核心部を通過したので、今日は余裕をもって楽しめる日程のはずだ。

木下さんが朝釣りに行った。餌の川虫を探して石をひっくり返したら、イワナがビックリして逃げていったとのことで、イワナはたくさんいるようだ。川虫3匹でイワナを3匹釣り上げ、効率が良い。イワナをぶつ切りした味噌汁になる。アスパラの炒め物もあり、豪華な朝食だ。

7:50 出発する。特別に難しいところは無い。途中で登山用のフライパンを拾う。9時に大東新道と合流し、休憩していると岩の上に新品のロープを発見。放置しておくわけにもいけないので回収する。大東新道はところどころで高巻きしているが、我々は水線通しに進む。私は3日目の疲れが足に来ていて、なんでもないところでスリップして脛をぶつけてとても痛かった。イワナがうようよ泳

ぐ淵を2つ過ぎ、10時30分に薬師沢小屋に到着。とうとう上の廊下の遡行を達成した。でも、まだ赤木沢が残っている。



薬師沢小屋を10:50 出発。赤木沢直前の淵は右岸から越えるが一歩が意外に難しかった。12:00 に赤木沢出合に到着。赤木沢出合の淵では時折光が差し、美しい。



赤木沢でイワナと一緒に泳ごうと思って水泳用のゴーグルを持ってきたが、疲れていたのでパスする。

赤木沢は出合からナメ滝が続く。ウマ沢出合からは4段30mの滝。1段目は直登。2段目は木下さんがロープを出して右から登り、草付をトラバースするが、しっかりした踏み跡がある。3段目は木下さんと柳下は右から巻き、他3人は右壁を直登。4段目も柳下は巻き。その先も小滝とナメが連続。疲れてきたため良いテン場を探しながら歩く。段々空が暗くなり、大滝手前で雨が降り出す。大滝は右から高巻き、大滝上は右から入る2本目の沢に入る。3日間の歩きの疲れが出て、遅々として進まない。すぐに水が枯れるが、今日中に太郎平のテン場までに行くことに決め、行動中の水だけを汲む。後は進むのみ。



水が枯れた源頭の草原を溝に足を取られながら一步一步進み、4時15分登山道についた。上の廊下から赤木沢まで計画した全ての遡行を終え、握手。完全遡行達成、



メンバーに感謝し、お互いをねぎらう。装備を解き、重くなったザックを背負い、雨とガスの中、太郎平のテン場に向けて2時間の稜線歩きとなる。晴れていれば、美しい縦走路だ。

太郎平小屋で幕営の手続きをして、乾杯用のビールを仕込み、テン場到着は6:40。夕食は平本さんのマーボ春雨高野豆腐、シーチキン、ランチョンミート入り。昨日が寒かったので、焚き火ができないテン場は心配だったが、テントの中は暖かく、服もすっかり乾いて暖かい夜となった。ちょっと狭かったのと、みんな疲れていて静かに眠っていらなかったのが難だった。

8月16日

本日は下山するだけの日程。朝起きると視界も開け、昨日たどった稜線が見渡せる。3日間歩いた黒部流域に思いを馳せる。



天気が良く、この先下っていく行程が見渡せ、どんどん歩く。おおぜいの登山者とすれ違い(若い女性比率も高い)、最後は樹林帯の急下降で約 2 時間半で折立到着。長かった山行が本当に終了した。



早川さんの車は既に回送されており、立山駅までメインキーを回収に行き、有峰林道(1800 円!)を通して平湯で昼食(「おこじよ」牛すじカレー900 円はお勧め)、入浴し、渋沢経由で帰宅した。

コースタイム等

8 月 12 日

21:30 海老名駅集合 02:00 扇沢着仮眠。

8 月 13 日

トローリーバス 6:30→6:45 黒部ダム→9:50 平の渡し→12:35 奥黒部ヒュッテ 13:20 入溪→15:30 口元のタル沢→

17:00 終了

8 月 14 日

7:30 出発→9:40 上の黒ビンガ→10:45 金作谷→15:20 赤牛沢→17:00 終了

8 月 15 日

7:50 出発→10:30 薬師沢小屋→12:00 赤木沢→14:00 大滝→16:15 登山道→

18:40 終了

8 月 16 日 7:45 出発→10:20 折立

交通費 車代一人約 11000 円  
(車両回送費 3 万円)、  
トローリーバス 1710 円

## どんぐりパーティーの上の廊下遡行

平本 三浩

今回のパーティーには特に泳ぎや渡渉に強い人間がなく、どんぐりの背比べ的なメンバーだ。幸いにして天候と水量が安定していたので、難なく遡行を遂げることができた。

事前の渡渉トレや東沢での練習山行では芳しくなく、本当に上の廊下に行けるのだろうか？との不安を抱いていたことも確かだ。田中さん、松田さんの両エキスパートからの前向きで具体的なアドバイスを頂いたことにより、先頭を切って激流に臨む覚悟ができた。メンバーも5名の、沢としては大パーティーとなり、リーダーとしての責任を感じたが、早川さんが事前調査、現地での状況把握など計画面での中心的役割を果たしてくれた。

渡渉の時も自然と2-3名で、時には5名全員でスクラム渡渉に入りメンバーの息も合っていたと思う。

上の廊下は天候と水量により状況が全く変わるという。今回は好条件に恵まれてラッキーだった。

広大で美しい溪谷を各々の個性を生かして、時には力を合わせて、のびのびと遡行できたことは、本当に幸せなことと思う。また、この良きパーティーのリーダーを勤めさせていただいたことに対しメンバー全員に感謝します。

木下和男

2回目の上の廊下です、今回は水の量が少ないが水流が速くて腰ぐらいの渡渉でも流されてしまいます、すべて水線沿いに行ったので1日中水に濡れていました体力が奪われます。晴れていたのだから暖かい石を抱いて濡れた身体を暖めました。チームワークのおかげでスクラム渡渉がうまく出来ました。下の黒ビンガ、立石奇岩等は記憶に残っていました、イワナとも出会いました。赤木沢では午後から雨に濡れてさんざんでしたスタミナが切れて足が上がりなくなりました、本当にバテバテになりました、長がーくつらい一日でした。何とかテンバに着きホッとしました。今回の沢山行を完全登踏出来たのは平本さんをはじめ皆様の協力があったからだと思います本当にありがとう御座いました。又の沢山行を楽しみにしております。

## 上の廊下紀行

早川 尚武

帰宅して、一気に緊張感が抜けて、充実感よりも脱力感を感じている。今回の山行に関しては、相当に精神面での要素が大きかった。過去の、会の2つの記録を参考にしていたが、いずれも水量が多い中でかなりの苦闘ぶりを伺わせていた。果たして、自分達の山行中はどの様な状況に置かれるのであろうか。それこそ「神のみぞ知る」事である。

直前まで、黒部川の防災情報に関するウェブサイトでライブカメラの映像を確認していた。黒4ダムの下流域ではあるが、水量は少ない。かなり不安定だった天候も、出発の数日前から安定し始めている。不安が少し薄らいでいく。

初日、晩ご飯のおかずを欲張りすぎて荷物がかなり重くなってしまった。その結果、腰痛が早くも酷くなってしまい、荷物を分ける事に。皆さん申し訳ありませんでした。ちょっとみっともない事です。湖岸沿いの登山道から見たバックウォーターの水量は、低い水位で安定している様子。天気も申し分無い。今回の計画は源流部の赤木沢も繋げているが、まずは申し分ない。「しめた、イケル！」と確信した。

入渓してすぐに、右に、左にと、渡渉を繰り返すが、問題無く通過して行く。口元のタル沢手前のゴルジュ通過でちょっと時間を食ってしまったが、これは体験学習の様なものである。左岸を小さく巻くのが正解。強いて泳ぐ必要はない。

身体を冷やし過ぎると、次の行動に支障が出るので、駄目そうであれば、すぐに対処法を考えねばならない。調子に乗って3回も泳いだ結果、巻きのクライムで身体が動かず、辛い思いをした。

2日目。核心部通過。

出発して程なくして、渡渉するか、へつるか、ちょっと悩ましい場所に出た。みんなして、てんでばらばらに、あっちだこっちだ、とやった挙げ句に行けず仕舞い。結果リーダーがロープを引いて渡渉。リーダー、すみませんでした・・・。

上の廊下は、想像を遙かに超えた雄大な景観を呈している。アルプスの名にし負う、その眺め。薬師岳と言うには、あまりにも人を寄せ付けない山肌の荒々しさ。上の黒ビンガの壮麗な岩壁の景色。所々に掛かる、川岸の岩肌を削り、水を落とす滝の姿。見飽きず、心飽きる事など全く無い。長い川原歩きでさえ、心躍り、気持ちは馳せ飛んでいく。

川幅が狭まれば、そこに磨かれた花崗岩の、天然の造形美を見る。言い表す言葉を持ち得ない。

3日目。赤木沢。

優美な滝をいくつも掛けて、稜線へと導いてくれる。雄大な景観の川旅の終章を、やわらかに飾ってくれた。明るく開けた渓は、行く先の滝の姿を、穏やかに、また、誇らしげに見せている。

遡行終了。雨と霧の中、たおやかな稜線を幕営地へと急いだ。